

集団の社会関係資本が主観的健康に及ぼす影響

—大学生のサークル集団を対象とした Heterogeneous Choice Model による検討—

東北大学／日本学術振興会 鈴木伸生

1 目的

本報告の目的は、集団内部の社会関係資本（以下、SC と略記）が、成員の主観的健康に対して、個人レベルで作用するのか、文脈（集団レベル）効果をもつのか、それとも両水準が補完的な機能を果たすのかを解明することである。これまで、SC と健康に焦点を当てた研究では、個人レベルまたは、コミュニティレベルを中心に研究されてきた。ところが、集団レベルで検討した研究は、ほとんどない。コミュニティレベルの文脈効果の多くは、社会集団の SC の効果を含んでおり、それが集団内部に存在する SC の効果なのか、集団参加した個々人の SC が集積した効果なのか識別できない、という問題を孕んでいる。この点は、「SC を私的財と考えるか、集合財と捉えるか」(Kawachi et al. 2008; Poortinga 2006; Snelgrove et al. 2009)という SC と健康分野の伝統的な問題と密接に関わる。そこで、本報告では、大学生のサークル集団を対象に、主観的健康に対する、個人・集団両水準の SC の効果を実証的に検討する。

2 方法

本報告の分析には、報告者が日本社会学会倫理綱領に従い 2012 年 2 月～3 月に実施した、「大学生のサークル・クラブ活動に関する調査」の個票データを使用する。母集団は、東北大学の全サークル・クラブ団体である。調査対象者の選定は有意抽出法による（回収数 123 名、18 団体）。

従属変数は、主観的健康（ダミー変数）である。独立変数は、個人レベルでは、(1)成員への信頼：集団の平均で中心化、(2)成員間の互酬性：集団の平均で中心化、(3)集団内の親友率：集団の平均で中心化、集団レベルでは、(4)成員への信頼：集団の平均、(5)成員間の互酬性：集団の平均、(6)集団内の親友率：集団の平均である。統制変数は、性別と集団の在籍期間である。分析には、Heterogeneous Choice Model (Williams 2009) を利用する。標準誤差の推定には、集団ごとにクラスター化したサンドウィッチ推定量を使う。

3 結果

Heterogeneous Choice Model による分析の結果、主観的健康に対して、集団レベルの信頼（+の効果）・互酬性（-の効果：10%水準）・親友率（+の効果）が効果をもっていた。このことは、集団内部で成員間の信頼が高いほど、集団内部で成員間の互酬性が低いほど、集団内部で成員間の親友率が高いほど、個人の主観的健康が高くなりやすいことを意味している。特に興味深いのは、集団レベルの互酬性が、健康に対してネガティブ SC として機能する傾向をもつ点である。

4 結論

集団レベルの分析では、集団の文脈効果が成員の主観的健康に影響を及ぼしていた。以上の結果は、[1]集団レベルの SC が健康にとって重要であること、[2]社会集団への参加が健康に及ぼす効果は、先行研究で操作化されてきた個人レベルの社会参加変数には十分に反映されず、従来の研究ではその効果が過少評価されてきたことを示唆している。

謝辞

本研究は、日本学術振興会特別研究員奨励費の支援を受けました。

引用文献 ■Kawachi, I., Subramanian, S.V. and Kim, D.2008. *Social Capital and Health*. New York: Springer. ■Poortinga, W. 2006. “Social capital: an individual or collective resource for health?” *Social Science & Medicine* 62:292-302. ■Snelgrove, J.W., Pikhart, H. and Stafford, M. 2009. “A multilevel analysis of social capital and self-rated health: Evidence from the British Household Panel Survey.” *Social Science & Medicine* 68:1993-2001. ■Williams, R. 2009. “Using Heterogeneous Choice Models to Compare Logit and Probit Coefficients across Groups.” *Sociological Methods & Research* 37(4): 531-559.